

第5回江東区都市計画マスタープラン 2022 推進会議【会議録】

開催日時	令和5年5月15日(月)午後2時00分		
開催場所	江東区文化センター3階第1, 2研修室		
出席者 (敬称略・順不同)	【委員】 <委員長> 志村 秀明 <委員> 市古 太郎、川内 美彦、森本 章倫、柳井 重人 【区職員】 都市整備部長、都市計画課長、まちづくり推進課長、 沿線まちづくり担当課長、都市交通輸送計画担当課長		
【議題】		【所管】	
(仮称)江東区臨海部都市交通ビジョンについて		都市交通輸送計画担当	
【議事概要】			
No	該当資料	委員の意見要旨	区の回答要旨
1	資料1	都市計画マスタープラン 2022 で想定する様々なモビリティの活用等、回遊性の観点を意識しながら作成していけるとよいと思う。	都市交通ビジョンについては、回遊性とアクセス性の2点をしっかりと考えるとともに、都市計画マスタープラン 2022 を踏まえて作成していく。
2	資料1	拠点である豊洲からの回遊性について、需要等の検討ができることよい。 交通量調査などの実態調査を行うことを検討し、都市交通ビジョンの作成を進めていただきたい。	都市交通ビジョン策定のために新たに実態調査を実施する予定はないが、他調査の結果等を十分に把握したうえで検討していく。
3	資料1	レクリエーション・環境・防災など多面的な側面で移動を捉えていただきたい。 臨海部にはレクリエーション資源が集積しているので、移動そのものがレクリエーションになり得る。	交通手段には様々な視点が必要であり、舟運など移動そのものがレクリエーションになるという点も意識しながら考えていく。
4	資料1	防災の観点から、通常時の交通だけではなく非常時の交通についても念頭に入れ作成していただきたい。	都市交通ビジョンは、通常時の交通を基本としてまとめていく。防災の視点をどのように取り入れられるかについては、今後検討していく。
5	資料1	不足している中央防波堤・新海面処分場エリアへのアクセスについて、区として考えておく必要がある。	中央防波堤・新海面処分場エリアへのアクセスについても検討していく。
6	資料1	上位計画の東京ベイeSGプロジェクトでは、臨海部の目指す姿や取組みが年代毎にステップを分けて記載しているので、都市交通ビジョンの作成にあたっては、将来像や取組みを時間軸上で整理していただきたい。	都市計画マスタープラン 2022 の目標年次である概ね 20 年後を一つの区切りとして作成するとともに、今後の大きな変化が見込まれ

		短期・中期・長期でのロードマップの作成が必要である。	る中央防波堤・新海面処分場エリアについては30年後を含めて検討していく。そのうえで、短期的・中期的・長期的に進める取組みを時間軸上で整理していく。
7	資料1	土地利用の用途によって発生する交通需要が異なる。交通量のキャパシティの過不足を議論するためには、交通需要に関するシミュレーションが大まかでも必要である。	需要の推計については、委託事業者とも話をしながら、可能な限りやっていく。
8	資料1	自動運転などの新技術を前提にした設計が必要であり、自動運転社会に対応した施設側・道路側へのアプローチを記載していただきたい。	自動運転を臨海部で導入した際の施設側・道路側へのアプローチについてもあわせて記載していきたい。
9	資料1	空飛ぶ自動車などの新技術について、東京ベイeSGプロジェクトでも触れており、実際に他自治体でも検討が始まっているので、多くのアイデアをもって作成していただきたい。 臨海部における他のプロジェクトの情報収集等も重要である。	臨海部における他のプロジェクトの把握に努め、それらを踏まえながら、検討していく。